



# 金津洋一氏

市原製陶株式会社  
代表取締役社長

生年月日：昭和 30 年 11 月 17 日（61 歳）  
血液型：A 型  
家族：母・妻・長男夫婦・孫 2 人・長女・次男

# この人にインタビュー



## インタビュアー

- 広報委員長 大脇 慶二
- 広報委員 塚本 修久
- 広報委員 柴田 幸一

I N T E R V I E W

今日は、市原製陶(株)金津社長のインタビューに広報委員会でお邪魔いたしました。

まずは、御社の概要についてお伺いします。

**金津** 当社は昭和 31 年 9 月 6 日に創業しまして、今年 60 周年を迎えました。ちなみに 9 月 6 日は創業者である父の誕生日で、私は 2 代目になります。

今年 9 月 4 日（日曜日）に、お客様・仕入れ先様・社員・行政関係者の方などに集まっていただき、60 周年の記念事業を行いました。お祝いというより、お世話になってきた皆様に感謝の気持ちを表したかったからです。

実は、10 年前、父が 50 周年記念をやりたいといったとき、3 年先が見えない厳しい経済環境でしたので、猛反対してやめさせてしまいました。一昨年父が亡くなり、今年 1 月に 3 回忌を済ませましたが、

何もないゼロから始めて 50 年の節目に感謝の場を設けたい、といった父の気持ちが今になってわかり、やらせてやればよかったなと今さらですが思います。

そんなわけで、60 周年事業をおこないましたが、この東濃地域には 60 年どころか、90 年とか 100 年・130 年続いている陶器屋さんが多くありますので、まだまだ通過点といったところでしょうか。

次に経営戦略についてお伺いします。

**金津** 15 年くらい前から、陶磁器業界の仲間が集まり『グリーンライフ 21』（通称『GL21』）というグループをつくって、リサイクル食器の開発を始めました。

陶磁器というものは、自然を破壊して山から原料



を採ってきて、1300度の高温でCO<sub>2</sub>をバンバン出しながら焼き、不要となれば埋め立て地に埋めるしかありません。しかも1000年たっても土に還らない素材で、環境に負荷をかけ続けながら生産していることになります。

陶磁器を大量生産・大量供給しているこの地域この業界の人間として、何かやるべきことがあるのではと考えました。そこで、捨てられ、埋め立て地に行くしかなかった食器を回収して原料に戻し、再び器によみがえらせることができないか、県の試験場の方にも相談して取り組みました。

どういう方法でリサイクルするのですか？  
もっと高い熱をかけて焼くとか？

**金津** 回収した食器を細かく粉碎して、原料と混ぜて使用します。簡単そうで意外に難しく苦労しました。市場から回収された食器というのはいろいろな物が混ざっています。陶器もあれば磁器もあり、回収するたびにその比率は違ってきます。私達は回収してきたものを全て入れても、安定して美濃焼のできる土をつくるというところにこだわりました。今、世界でこの取り組みができるのはこの地域だけです。多くの美濃焼メーカーさんに地球環境に配慮したこのリサイクル土を使って、美濃焼をつくってほしいと考えています。

先程から気になっていましたが、後ろにずらりとならんでいるのは水素水のサーバーですね。市原製陶さんは陶器屋さんですよ。大変不勉強で申し訳ないですが、水素水との繋がりはどうなものでしょうか？

**金津** 今お話ししました『GL21』の活動で、12月に東京ビックサイトで開催される「エコプロダクツ

展」という、環境に関連のある機械や商品などあらゆるものが集まっている展示会に何年か続けて出展し、リサイクル食器の紹介をしていました。

そこで、水素水や電解水などの環境に配慮した機械を出展していた、広島の特クコーポレーションという会社の社長と話す機会がありました。水素水サーバーは、水道水をフィルターを通して純水にまで濾過し、特殊な方法で水素を含ませる機械です。人間の体の約8割は水分なので、きれいな水を体に取り込むだけでも当然体にいいわけですが、同時に水素を体内に取り込むことで、更に健康に大変良いと注目されています。

電解水は、水をアルカリ性と酸性に分けて洗浄や除菌・消臭に用いるもので、排水する過程では普通の水に戻りますので、環境に配慮した機能水です。

私は昨年還暦を迎え、少しゆっくりしたい気持ちもある反面、還暦は人生の再スタートの年でもありますので、何か新しいことを始めたいという思いがありました。陶磁器だけでは難しい時代ですから、別の柱となるものがほしい、特にこれからのキーワードである健康や環境に関わりたいと思っていましたので、この水素水と電解水に大変興味をもちました。

「陶器と水素水・電解水」、一見全然繋がりがありませんが、実は水素水のサーバーを置く場所、電解水が利用される場所の一つに、“厨房”があります。レストランや民宿、給食センターや病院・介護施設などの厨房。そして、厨房に必ずあるものが“陶器”です。

当社は小さい会社ですが、地元の間屋さんを通じて北海道から沖縄まで製品を届ける事が出来ます。今の陶器のルートを使えば全国の厨房に特クコーポレーションの製品を紹介することができます。

特クコーポレーションの社長もそこに魅力を感じられ、去年の10月から取扱い始めたばかりですが、中部地域の総代理店という立場で全国に紹介させていただいております。

なぜ陶器屋が水素水かとよく言われますが、一つには環境と健康にすごく関心があったこと、もう一つは、現在ある陶器の営業ルートでやれるということ。この二点が大きかったわけです。

私も洋服を売っていますが、最近は“水だけの洗剤”というものも扱っています。衣類と洗剤は繋がっていますよね。厨房・洗剤・洋服、販路はいっぱい広がりますね。

座右の銘と最近チャレンジしていることがありましたらお願いします。

**金津** 「楽しく」・「真剣に」ということをいつも考えています。

何をするにも、もっと楽しく、もっと真剣に、やりたいと意識しています。

もう一つ、山口県の旭酒造という「獺祭」で有名な酒蔵がありますが、その社長さんに「獺祭 その先へ」というお酒をいただいた際、紙にしたためてあったコンセプトに感銘をうけましたので、ご紹介いたします。

いかに困難が予想されても、  
いかに現在が心地良くて、  
その先へ、 我に安住の地はなし。

カッコよすぎて人には言えませんが、心の中にしまっています。

趣味や健康法について伺います。

**金津** 朝から晩まで健康に悪いことばかりしていますが（笑）、健康診断はオールAなんです。でも60過ぎましたから、これからは気を付けないといけないと思っています。ゴルフが好きで、最近は3回に1回、80台ができるようになりました。次は3回に2回80台が出せるように、楽しみながら真剣にチャレンジしようと思っています。

現状に満足せず、常にチャレンジ精神をおもち



ですばらしいですね。

最後に、法人会についてはどうお考えですか？

**金津** JCを卒業して10年くらいは法人会で活動していましたが、最近ちょっとご無沙汰（笑）していますが、最近の法人会をみていますと、存在の目的が何かわからなくなっている気がします。

法人会設立当初は、自己申告納税制度の確立という確固たる目的がありました。今その目的は達成されていると思います。

子どもの租税教育や、社会貢献活動、税制改正要望などの活動はしていますが、それは目的ではなく事業です。法人会の現在の存在目的は何か、他の経済人の集まる団体との違いは何かをもっと明確にすることが、ひいては会員拡大にもつながっていくと思うのですが…。

貴重なご意見、ありがとうございました。課題はしっかり受け止め、よりよい法人会にするために、今後ご指導よろしくお願い致します。

